



八千代市民文化祭 郷土史展

テーマ「旧村の姿・大和田新田研究」

とき：11月18日(土)午後1時～5時 19日(日)午前9時～午後4時

ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室

旧村の今 大和田新田

・ ・ 大和田新田総合研究の発表です ・ ・
ごあいさつ

その昔江戸から成田へ、船橋を過ぎて広い大和田原をたどると、ちらほら家並みが見えてくる、そこは大和田新田のムラ。

大和田宿まではもう半時。

さびしいムラだが人やモノが行き交い、懸命に生きる姿があった。

開発の波がはげしくムラを変貌させたが、そこには確かな歴史の跡があります。それらをお伝えします。

躍動する街づくり・・・

新木戸祭りと例大祭(九日マチ)

開発を垣間見る地名

働き栄えた家・屋号

祈りをこめて築いた石造物

地域を育てた寺子屋の先生

江戸の名残り - 佐倉藩士小柴宣雄

大教院に札所があった

時平神社七年祭中年祭礼のルポ

そして研究活動のようす

調査研究でたくさんのかたがたにお世話になりました。

ありがとうございました。

どうぞごゆっくり ご覧ください。

八千代市郷土歴史研究会一同
会長・村田一男

お知らせ

12月17日(日)12月例会

古文書学習と新史料の調査

会場 市立郷土博物館 午後1時～4時

忘年会：午後5時から 「菊よし」にて
勝田台南口からリブレ京成の裏の駐車場の脇
会費：4000円(要・予約 平塚会員まで)

初春 2007年1月7日(日)

新宿山手七福神めぐり

集合場所 飯田橋駅 B3番出口 10時
東葉高速勝田台駅 8:52 発、前方車両に乗車

初春の一日 昔ながらの街並みの残る神楽坂
や内藤新宿など旧牛込区・四谷区の史跡をたず
ねながら、都会の七福神をめぐります。

コース

善国寺・・・光照寺・・・多聞院・・・経王寺・・・
(大江戸線 牛込柳町=東新宿駅 昼食休憩)
稲荷鬼王神社・・・永福寺・・・巖島神社・・・
法善寺・・・西向天神社・・・大宗寺・・・
新宿三丁目駅(15:00)解散予定

参加の方は必ず、12月例会までにお申込ください。
会員以外の方も歓迎：参加費500円(会員無料)

2～3月のお知らせは 次ページ

***** お知らせ *****

2月18日(日) 博物館活動協力
「吉橋大師開設200周年記念フォーラム」

2月25日(日) 学習会
・午後1時～4時半 市立郷土博物館にて
・新年度へ調査研究課題の検討
・「郷土史研通信」57号発行

3月4日(日) 拡大役員会
・午後1時～4時半 市立郷土博物館にて
・平成19年度事業打合せ他

3月18日(日) 歴史散歩
・通信57号でお知らせします

***** 報告 *****

8月20日(日)
拡大役員会・例会 &
大和田新田下区のフィールドワーク

・市博物館にて、新入会員1名を含む27名が参加し、大和田新田に関する調査の報告、「史談八千代」31号執筆項目の検討、文化祭展示作品などの情報交換を行いました。
・「郷土史研通信」55号を発行しました。

情報交換・調査報告

大和田新田の屋号について、古文書に記載されている屋号表と昭和4年当時の屋号の地図案を提示し調査の到達点や疑問点について、蕨が報告しました。

吉橋大師32番札所であり、稲荷神社手水鉢や飯綱神社石塔に彫られている「大教院」の行方について判明したことを、平塚会員が報告しました。

佐圓司筆子塚の調査について、小林佐圓司はどこで学んだかなどの疑問点が、佐久間会員より提起されました。

石造物調査の到達点について園田会員が報告しました。

佐藤会員が千葉県明治初期の行政区域「大区小区」について作成した分画図を提示、明治5年～9年の大和田新田の変遷状況の説明がありました。

大和田新田のフィールドワーク

午後2時半から、車に分乗して市役所へ、ここから例会資料の屋号地図を参考に、下区の神社、石造物などを探索しました。

今年度の調査対象地域について、初めての方も土地勘と新しい発見が得られたと思います。

終わってからは、有志で暑気払いがなごやかに行われました。

・コース：稲荷神社 - 庚塚 - 旧家の墓地 - 道祖神 - 子安塔群・佐圓司碑 - 下区公会堂の不動祠・札所・石碑群 - 八幡神社境内石造物



八幡神社にて

9月9日(日) 拡大役員会・例会

21名が参加し、市博物館にて「史談八千代」31号の内容や体裁、スケジュールを決めました。原稿締め切りは、会長が承認後の決定稿を組版担当に9月末までにメールで送ることになりました。

編集委員会を立ち上げ、委員長は畠山会員、組版は(盛岡に移住した)増田会員にお願いしました。

10月8日午後、大和田と萱田町の時平神社の中年(ナカドシ)祭礼の案内が地区からありました。

9月25日(月)文化祭展示に向けて、小柴宣雄墓碑などの石造物の拓本採りを2班に分かれて行うことにしました。

今回も「史談八千代」草稿を中心に、調査の進展のあった史料「成田山開帳」中の大和田新田について、「大教院」について、また「佐圓司筆子塚」にある行政区域「大区小区」についてなどの報告がありました。

10月8日(日) 校正編集作業

10月8日、14名が参加して市博物館にて、「史談八千代」31号の校正編集作業を行いました。

またこの日は、大和田・萱田町の時平神社中年祭礼と大和田新田上区の新木戸祭りが重なり、時平神社に2名、新木戸祭りに1名の会員が祭りの取材と見学を行いました。

10月24日(火) サポセン祭りのパネル制作

5名の会員で11月3日に行われる「やちよ市民活動サポートセンター祭り」の展示パネルの制作を、博物館で行いました。

10月29日(日) 10月例会

23名が参加し、午前10時から「史談八千代」校正編集作業と郷土史展案内葉書の宛名書き、午後は4時ごろまで、阿弥陀堂調査の報告や展示やスケジュールの確認などを博物館で行いました。

(以上 蕨由美・記)

9月25日(月)

墓石銘文調査で拓本採りをしました

9月25日、2班に分かれて拓本とりを実施。

当班は八千代霊園脇の大和田新田共同墓地内の小林秀次郎墓標、大教院墓、杉本伴蔵夫妻墓の拓本とりを担当しました。

滝口、牧野、佐久間、佐藤二郎、浄園、斎藤君代の6名で9:30より昼過ぎまで滝口、牧野会員の指導のもと熱心に行われた結果、湿式法・乾式法によるもの2種類のものが見事に出来上がりました。風も少なく良いお天気恵まれて助かりました。

(斎藤君代・記)

こちらの班は村田会長以下、関和、森山、酒井、平塚、中島、畠山の7人。目標は一本松地内にある小柴宣雄家の墓碑です。

この日は朝から晴れ。爽やか天気なのは良かったのですが、湿らせた紙がすぐ乾いてしまうので、作業を早くしかも丹念に進めなければなりません。

最初は手馴れた会長の拓本とりに見入っていた会員も、次第に学習効果を発揮して最後は見事3枚の拓本を仕上げることができました。(畠山・記)



10月8日

時平神社七年祭中年祭礼取材して

齋藤君代

10月8日13:00より国道296号線(成田街道)道路を車両止めにして、市役所前入口から大和田駅手前までを大和田山車、萱田町神輿/山車が巡行する祭りで大勢の見物の人々にぎやかでした。

神輿と山車が最後に帰る時間が途中休憩しつつも19:30と遅くまで巡行すること、出店が全くないことが印象的でした。見物の人からなぜ出店がないのかと聞かれて?でした。



10月8日 大和田新田青年会主催

「新木戸まつり」取材して

藤 由美

大和田新田上区の八幡様のお祭りは「ココノカマチ」(九日祭りの意)といって、毎年10月9日に、上区の神明社と一緒に本祭が行われます。

氏子総代で八幡神社お隣の旧家、サヘイ家さんにお聞きすると、戦前の「ココノカマチ」は「餅をついて、甘酒を飲んで、神主が来る」だけのささやかな祭礼だったそうですが、戦後、ムラの発展とともに、青年会が神輿の渡御するにぎやかな祭りを加え、2006年は、この青年会の祭りが、ココノカマチの前日の10月8日「新木戸まつり」として行われました。

大和田新田の新木戸界限は、成田街道の発展とさらに東葉高速鉄道の「緑が丘駅」の完成で、新田ムラから街へと大きく変貌しています。変わりゆく街と住民の姿を反映した地域の祭りを取材してみました。



午前8時、三山の二宮神社の神主さんが到着。初興式は、八幡神社と神明社の2社で行われます。今年、時平神社のナカドシの大祭と重なり、神主さんは大忙しで、例年より1時間早い開会となりました。

神社本殿の前に安置された神輿は、江戸時代からの「善兵衛組」(現在の上区)の名主だったゼンベエ家が戦後神仏と地域に感謝して神明社に寄贈されたものです。ゼンベエ家の白井富美子さんのお話では、神明社は元ゼンベエ家の氏神でしたが、かつての旧家も近代になってから、戦後はさらに農地解放などの政策で苦難が多く、夜も畑仕事に精を出すような生活の中で、お金を貯めて念願の寄進を果たしたとのことでした。

氏子総代のサヘイさん、青年会員、消防団などが勢揃いして、2社での初興式が終わると、しばらく待ち時間があり、10時、新木戸保育園の園児たち

による鼓笛演奏で、祭りはスタート。子供と役員さんが手押し車で押す賽銭箱を先頭に、保育園の鼓笛隊、高張提灯、神輿、山車が成田街道を新木戸三叉路の中島GSまで渡御します。

元気に演奏する子供たち。その付き添いの若いお父さんお母さんで行列はいっぱいです。ヤドの中島GSで休憩。園児たちの演奏はここで終わり、あとは自主参加ですが、子供も、ビデオやデジカメでわが子の晴れ姿を追っていたお父さんも神輿を担ぎ、山車を引いて木下街道から高本道へ進み、途中、結城自動車で休憩。東葉高速の高架脇の道を経て、新木戸小学校へ着きました。ここで昼食、お母さんたち手作りのお稲荷さんとおにぎりをいただき、ここから地元野球のリトルリーグの野球少年をそのリーダーが神輿を担ぎ、山車にはちょっと歩きくたびれた幼児たちが乗って、神明社をめざします。

神輿は緑が丘前の大型スーパーやマンション街を抜けて、成田街道沿いの村田産婦人科の駐車場で休憩。院長先生ご夫妻に見送られて、成田街道を西へと進み、神明社に到着しました。

ここからは、八幡神社までいよいよ青年会のメンバーが神輿を担ぎ祭りのクライマックスへ。交差点では高く挙げて揉み、さらに会長が神輿の上に乗る最大の見せ場となり、やがて、八幡神社に還御。無事手締めとなりました。



その後も、少年たちの相撲大会や幼児向けの輪投げゲームなどの催しが続き、いつもは静かな鎮守の森に、大人も子供も、旧家の若旦那もマンションの新住民も一帯となった楽しい歓声が響いていました。

11月3日(祝) サポートセンター祭り

25団体が集った第3回サポートセンター祭り、前日の準備、当日と会長・副会長をはじめ会員の皆さんの協力で盛会でした。ポスターコンクールでは関和会員の力作が堂々第3位の表彰をうけました。フルルガーデンでの開催は今年が最後でしたが、豊田市長も当会のブースを訪れ、日ごろの活動に感心されたようでした。(佐久間・記)

10月9日(祝)

上区八幡神社の祭礼参加記録

佐久間 弘文

10月9日は大和田新田上区「神明社」と「八幡神社」の例大祭でした。

研究会からは牧野副会長、佐久間の二名が参加を許され、秋晴れのもと厳かな中にも和やかな雰囲気祭りが執り行われました。

まず11時から始まった神明社の式典には、秋の収穫物が供えられた本殿前で30名を超える氏子が参列、二宮神社神主の司祭で全員による玉串奉奠、御神酒拝戴などののち、場所を新木戸の八幡神社に移し同様の式典が行われました。



神明社の式典

式典終了後は神社裏手の上区公会堂に場所を移し、総勢40名近くの氏子が参加し神明社、八幡神社の会務・会計報告などのほか、永年にわたって八幡神社および神明社の清掃にそれぞれ尽力されたご夫婦および観音講代表者へ善行の表彰が行われ、二宮神社の田久保神主から表彰状が手渡されました。

直会に入る前に、牧野副会長が大和田新田上区の歴史や事物などを簡単な配布資料をもとに説明され、氏子の皆さんから多くの関心が寄せられました。また昼食中にも地元の皆さんから旧村の多くの話題が提供され、牧野さんは食事のする間もないひとときのような様子でした。

なお今回の研究会からの参加は、たびたび上区の調査でお世話になった神社総代の山田義夫さんからお誘いがあり実現したものです。

= その他の活動 =

- ・11月10日(金) 「通信」ほか印刷作業
市民活動サポートセンターにて
- ・11月12日(日) 全日 郷土史展の展示制作
市立郷土博物館にて

10月14日(土)
白井家墓地と阿弥陀堂の調査について

蕨由美

『旧高旧領取調帳』に記載された江戸時代の大和田新田幕府領 568 石余の除地三か所のうち、「阿弥陀堂」2 石余の場所を探していたところ、平塚会員・村上元会員より、吉橋の花輪向に近い小字平作の白井善兵衛家墓地内の阿弥陀如来像を安置している小さなお堂に手がかりがあるのではないかと情報が寄せられました。

村田会長が、この堂の屋根寄進者の吉橋金左衛門家に問い合わせたところ、「管理者は白井善兵衛家、阿弥陀堂はかつて道端にあり、壊れてしまったので吉橋理氏は善兵衛家の依頼で新築を請け、現在地に建てた。その後、鉄板の屋根がだめになったので吉橋家でステンレス張りを寄進した。阿弥陀如来は、昔善兵衛家が背負って持ってきた」ということで、おそらく取調帳にある除地 2 石余の阿弥陀堂はこれであろう推定され、さっそく白井家の許可を得て、会長、石造物調査班ほか会員 9 名で、10 月 14 日(土) 午前 9 時～12 時、同所の調査をおこないました。

白井家の墓地は、笹塚より吉橋へ行く道の花輪手前の右側(青い塀のリサイクルセンター)の路地に入った奥にあり、入口に宝永三年(1706)銘の丸彫りの石造地藏菩薩立像、右奥に南面して半間四方の小さな阿弥陀堂がありました。



阿弥陀堂の調査

小堂の壊れた鍵をはずし、引戸を開けるとベンガラで塗られた厨子があり、中にかなり傷んでいます。すがりっぱな木造阿弥陀如来立像が安置されています。

丁寧に取り出して観察、計測と写真撮影を行いました。木像の全長は 85cm、像本体は 65cm で、両腕嵌め込みの寄木造り、肌と台座の蓮弁は金塗り、衣が黒漆、手のほか各部に損傷は著しいが、気品がある像で、台座裏などを調べても銘文はありません。

堂の後壁には、昭和 50 年に白井善兵衛家が、吉橋昇・吉橋理・吉橋暉・安原光各氏の施工協

力で建立した旨がしるされ、また側面・背面および天井の壁には細い椶木を放射状に張って阿弥陀如来の発する後光を表現していました。



近年整備された墓地は、白井善兵衛・白井庄右衛門・吉橋弥右衛門・吉橋金左衛門などの旧家の墓地を中心に新しい墓地も並び、各所に残された古い墓石や石仏にも供養のオゼンや花が手向けられています。古い石仏では元禄 10 年(1697)の舟型阿弥陀像(施主不明)、享保 19 年(1734)の白井善兵衛・同庄左衛門施主の夫婦の唐破風付墓塔、寛保元年(1741)庄左衛門施主の舟型如意輪像、寛保 2 年(1742)善兵衛施主の同じく如意輪像などが並び、17 世紀末ごろには、白井家を中心とする墓域であったことがわかりました。

午後は会長と佐久間会員と蕨の 3 名で白井善兵衛家を訪問し、白井富美子さん(大正 12 年生)に生い立ちや昔の生活のお話のほか、神明社は善兵衛家の氏神であった、だから念願の神輿を寄進したこと、そして調査した阿弥陀堂についてお話しいただきました。

富美子さんの記憶では、今日調査した墓地は白井家の墓地で、墓地へ行く道の左側に道路に面して朽ち果てた家屋が一軒あり、家の傷みがひどかったので、中にあった阿弥陀様のお像を家につれてきて安置したら、阿弥陀様のところだけ明るかったが、元の場所に帰りたいということで、今の小さなお堂を建ててあげたとのこと。道端にあった家は「あみださま」と呼んでいたそうで、白井家のものではなく、睦地区の人もよく拝みに来ていたそうです。堂守りが住んで

いた時期もあり、炊事に使う水は谷津へ下った小川の水がきれいだったので汲んできていたそうです。

午後4時過ぎ白井家を辞して、阿弥陀堂のあった場所を特定しようと、現地へ赴きましたが確定できず、さらに近くの吉橋弥右衛門さん宅でお聞きすると、壊れかけた家が道端にあったのは確かで、墓地へ上がる道の手前左、今の青い堀のリサイクルセンターのところだったとわかりました。また、墓地にあった地蔵石像は、元は阿弥陀堂のところにあったそうです。

『旧高旧領取調帳』に記載の「阿弥陀堂」は、この日の調査で比定されたわけですが、木造阿弥陀如来像の調査や白井家の成立関係もふくめ、さらに調査を深めて19年度の研究発表につながる方向で検討中です。

= INFORMATION =

12月9日(土) 13:30~
講演会「古代印旛郡は誰が造ったのか」
川尻秋生氏(早稲田大学大学院助教授)
会場:「サザンプラザ」印西市原山3-3
千葉NT中央駅から「きおろし(木下)駅行き」
または「津田沼行き」で、原山団地下車
主催:けやきカルチャー倶楽部(参加自由)
参加費:500円(学生300円)

2007年1月13日(土) 9:00~16:00
「古代印波シンポジウム」
場所:明治大学駿河台校舎リパティタワー
主催:明治大学古代学研究所公開研究会
講師:白井久美子・山路直充・川尻秋生・吉村武彦氏など

2007年1月20日(土) 13:30~15:00
八千代市ふるさと講座
「中世・伝米本城主村上綱清と米本城跡」
講師:遠山一成氏
主催&会場:八千代市立郷土博物館

2007年1月21日(日) 10:00~15:30
千葉県遺跡調査研究発表会
主催:千葉県文化財法人連絡協議会
会場:千葉市文化センター(中央ツインビル)

2007年2月18日(日) 13:00~16:00
吉橋大師開設200周年記念フォーラム
「吉橋大師の今と昔」
会場:八千代市立郷土博物館
主催:郷土博物館・むつみ街づくり研究会

未調査の石造物 地蔵菩薩を発見
小菅俊雄

10月11日に平塚会員より、「阿弥陀堂」の場所をさがして、大和田新田と吉橋の境界辺りの墓地で新しい石造物を見つけましたとの連絡を頂いた。

そこで、14日の会長ほか6名の「阿弥陀堂」調査に石造物調査班3名も同行した。

小字平作のリサイクルセンターの青い堀に沿った路地を登った所に墓地があり、その墓地入り口左側に石造丸彫りのお地蔵さまが南向きに安置されていた。

一度倒れて壊れたようで、左腕が欠損し、頭部をモルタルで接合してある。

お身の丈 97cm・肩幅 31cm・お身体の厚み 20cmの立像で、墓の台座を利用して、その上にモルタルで固定してあるが、すでにモルタルがもろくなって地震でもあればまた倒壊するおそれもある。

左袖に「宝永3丙戌年」(1706)と年号が、右手の錫杖に「十月吉日吉橋村願主」と月日が刻まれ、地蔵菩薩の本体表面に「奉造立地蔵菩薩心願成就」との銘文がある。

また台座右側の蓮弁に金左工門他2名の寄進者の名前が、また正面蓮弁に名前のような銘文が刻まれ、左側蓮弁には幻童子の銘文が、また正面と左の蓮弁の間に宝永元年(1703)十一月十日と刻まれている。

宝永元年に何か願い事をして、三年に叶ったのでそのお礼に造立したものであろうか、銘文の解釈が宿題として残された。



= 新入会員紹介 =
浄園恵子 大和田新田在住
板倉 守 高津在住

~~~~ 編集後記 ~~~~

都市化の進む大和田新田の地域研究。石造物・古文書の地道な調査と聞き取りで、新発見の連続です。新しいメンバーも迎え、市民の歴史研究の実績が期待されます。 by: 蕨 sawarabi-y@nifty.com